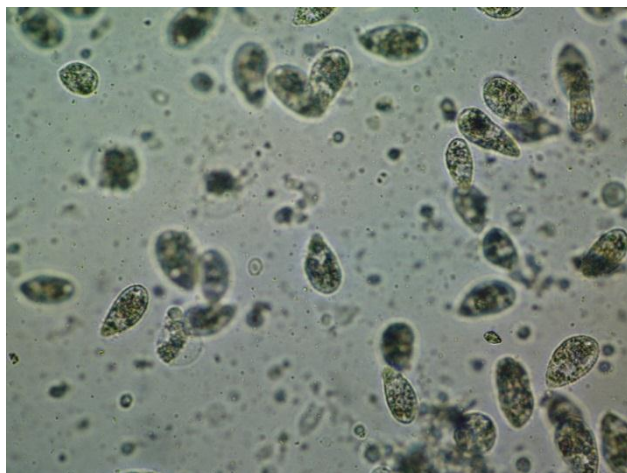


# ヒラメスクーチカ症 (Scuticociliatosis)

*Miamiensis avidus*



感染魚に見られた体表白化症状



体表に大量寄生したスクーチカ繊毛虫

## 発生生態

本症はヒラメの種苗生産や養殖現場において、スクーチカ繊毛虫の一種が寄生することで発生します。寄生を受けた病魚は摂餌不良となり、体色が黒化します。重篤魚では、体表患部の白化のほか、ヒレやエラ蓋内部の発赤、エラの貧血などが認められます。死亡率は非常に高く、府内でも深刻な被害が出たことがあります。

## 防除対策

本症に対する有効な治療方法はありませんので、発生の予防や感染拡大の抑制が重要となります。本虫は残餌や死魚を温床にして増殖することから、水槽掃除や死魚の取り上げなど、飼育環境を清浄に保つことが重要です。